田原中だより

学力特集号

北九州市立田原中学校
学校だより

校長　　林　昭裕

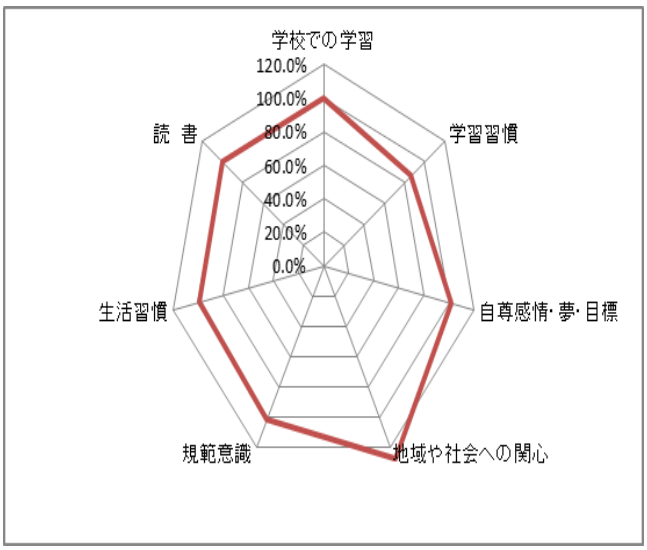
令和元年度　全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

　文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成３１年４月１８日（木）に、３年生を対象として、「教科（国語，数学，英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。　学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
　なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．　教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	「読む力」や「話す・聞く力」はやや下がり課題が見られたが、「書く力」については全国との差があまりなかった。 文章に表れているもののみかたや考え方について自分の考えをもって、感じたことや考えたことを書くことができていた。	下回っている
数学	「図形」や「資料の活用」では課題は見られたが、「関数」の領域ではでは全国平均とほぼ同じで、グラフの座標の読み取り等の数学的な技能が身についている。しかし、資料の傾向を捉えて説明するなどの記述を含む問題に課題が見られた。	下回っている
英語	適切な接続詞を記入したり、文法的な書き直しの問題などの「書くこと」の領域の問題に課題が見られた。しかし、英語を聞いて情報を正確に聞きとり、理解する問題では全国平均との差があまりなかった。また、「話すこと」の問題でも、全国平均との差があまりなかった。	下回っている

２．　学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・基本的な生活習慣が確立されている生徒が多く、規範意識も高く、落ち着いた学校生活を送ることができている。 ・授業では質問するなどしてわかるまで取り組む姿勢は見られるが、家で計画を立てて学習することができない生徒が多く、家庭での学習習慣に課題が見られる。 ・地域の行事に参加する生徒が多く、地域や社会への関心が高い。 ・読書が好きな生徒は多いが、実際に本を読む時間が全国平均に比べて少ない。

３．　調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・週末課題の実施、定期考査前の「これテス」「予想問題」などの取組による、基礎学力定着の徹底。
・授業において「めあて」「まとめ」を板書に提示するとともに、「振り返り」の時間を確保し、生徒自らが学習の過程を振り返ることで学習の定着を図る。
・授業にペア学習や班活動などの学習内容に合わせた「話し合い活動」を取り入れることによって、主体的、対話的な深い学びを目標とした授業実践を行う。
・「書く力」をさらに伸ばすために、行事が終わるごとに感想文を書かせる。
・ICT 機器を有効に活用してわかりやすい授業づくりに努め、基礎・基本の徹底と生徒の活用力・応用力を高める。
・朝自習などを活用し、読書週間を設定して生徒の読書時間を確保することで、読書に対する興味・関心を高める。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・各教科において、課題や実施方法を工夫しながら計画的に宿題を課し、家庭学習習慣を確立させる。
・家庭学習ノート（Ｔ１ノート）、生活ノートを活用し、計画性のある家庭学習に取り組ませる。
・学校便り等で本校の学力について保護者に発信し、課題を共有することで協力体制を整える。